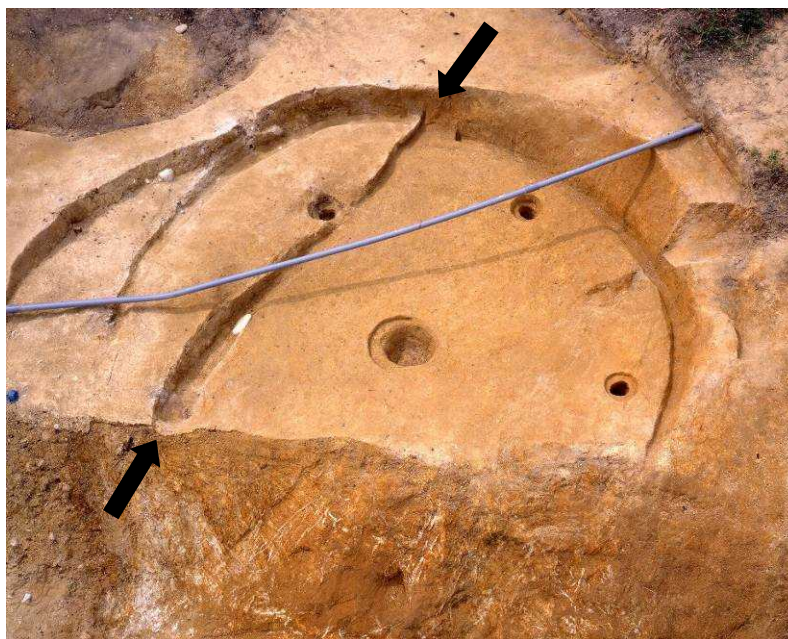


作成年月日	平成27年3月23日
作成部局	教育委員会事務局文化財課

兵庫県立考古博物館 阪神・淡路大震災20年特別展

「地震・噴火・洪水－災害復興の3万年史－」



断層でずれた竪穴住居跡
(淡路市塩壺遺跡)

1,900年前以降におきた地震によって、断層の真上にあつた竪穴住居の床面が大きくずれています。地震の破壊力を物語る遺構です。立体剥取りを展示します。

近年、日本列島各地で地震や火山噴火、洪水など大規模な災害が頻発しています。このような災害は遠い昔からたびたび発生しており、その痕跡が遺跡に残されています。

本展では3万年前から江戸時代に至る、地震、火山噴火、洪水など災害に見舞われた遺跡の資料を展示し、人間はどのように災害に向き合ってきたのか被災と復興の歴史を探ります。

- 1 会 期 平成27年4月18日(土)～6月21日(日)
- 2 展覧会名 「地震・噴火・洪水－災害復興の3万年史－」
- 3 会 場 兵庫県立考古博物館 特別展示室 (加古郡播磨町大中1-1-1)
- 4 主 催 兵庫県立考古博物館、神戸新聞社
- 5 後 援 兵庫県、兵庫県教育委員会、NHK神戸放送局、サンテレビジョン、ラジオ関西
- 6 開館時間 9:30～18:00 (入場は17:30まで)
- 7 休 館 日 月曜日
- 8 観 覧 料 大人 520円(410円) 大学生 410円(330円)
高校生 250円(200円) 小学生・中学生無料
※()内は20名以上の団体割引料金
※障害者およびその介護者1名は半額、満65歳以上の方は大人料金の半額

— 展覧会の主な展示品 —

本展では地震・火山噴火・洪水などの痕跡や、被災・復興の様子を物語る出土品・文書・絵画など約230点の多様な資料から、3万年にわたる災害と復興の歩みを紹介します。

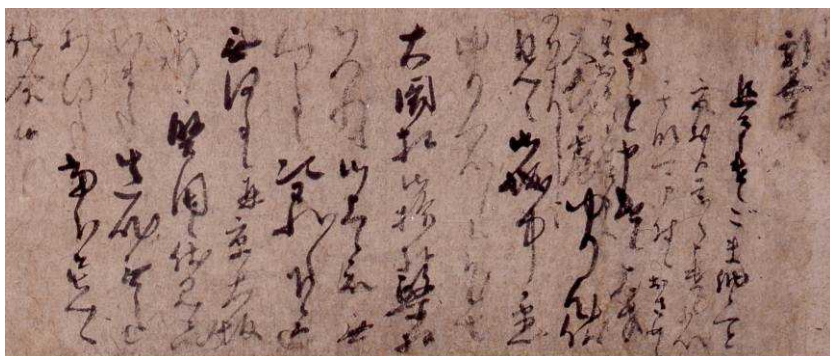
【地震】

南海地震（684年など）、播磨地震（868年）、慶長伏見地震（1596年）の3つの地震に関する出土品や文書などから地震の被害と人々の動きにせまります。

慶長伏見地震による噴砂

（神戸市玉津田中遺跡）

砂礫層が液状化しており、強い揺れがあったことがわかる。土層剥取りを展示。



慶長伏見地震を伝える加藤清正の手紙 （大坂城天守閣蔵）

清正が国元（肥後）の家臣にあてた手紙です。太閤（秀吉）や秀頼が無事であることを伝えています。

【噴火】

約29,000年前の鹿児島県始良カルデラの巨大噴火など、火山噴火と人間のかかわりにせまります。

始良カルデラの大噴火で飛来した火山灰 （丹波市七日市遺跡）

約20cmの厚さで旧石器時代の地表面を覆っている。土層剥取りと火山灰の下から出土した石器（県指定文化財）を展示。



【洪水】

稲作が始まった弥生時代から現代まで約2千年にわたる、洪水被害と復興の歴史をたどります。

洪水で埋もれた弥生土器

(神戸市玉津田中遺跡・県指定文化財)

約2,100年前の大洪水で、厚い砂の下に埋まった建物から出土した土器です。



【願い】

災害に向けられた人々の願いにせまります。



播磨国分寺の屋根瓦 (姫路市教育委員会蔵)

国分寺は奈良時代、災害がないよう願って建立されました。様々な災害にありましたが、そのたびに復興されてきました。

地震けん (大阪城天守閣蔵)

安政2年(1855)に江戸を襲った大地震直後に描かれた「鯰絵」の一つです。幕末期の内憂外患にあって、震災を契機により良い世の再生を願う民意が込められています。

問い合わせ先

兵庫県立考古博物館 〒675-0142 加古郡播磨町大中 1-1-1

ホームページ <http://www.hyogo-koukohaku.jp/>

【企画内容に関すること】担当学芸員 多賀 茂治

TEL 079-437-5562 (学芸直通) FAX 079-437-5599

【取材・写真提供に関すること】企画広報課

TEL 079-437-5589 (代表番号) FAX 079-437-5599

